参考資料 2 - 2

エボラ出血熱患者ケースシナリオ(2)

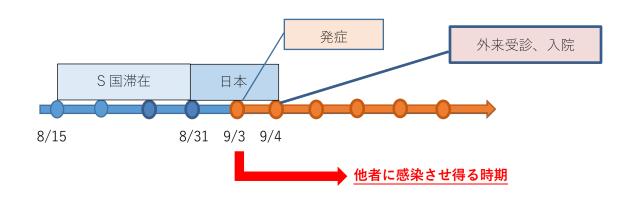
患者の基本プロフィール

氏名	厚生聡	性別	男性	年齢	21 歳	居住国	日本
都道府県	東京都	市区町村	C区	国籍	日本	基礎疾患	なし

厚生聡は、大学の夏季休暇を利用してアフリカのS国(かつてのエボラ出血熱流行地。現在の報告はない。)を旅行し、15日間滞在した。

S国では、同じ大学の留学生の家族がいる郊外のV村を訪れ、その家族の家で寝泊まりしていた。 V村滞在中、たまたま開催されていた結婚式や葬儀などにも村長の許可のもと、興味本位で参加していた。その村で熱が出て亡くなる者が滞在中に3名おり、その村の慣習に従い、葬儀の際、遺体に触れることがあった。V村は熱帯熱マラリアの侵淫地であったが、寝室には蚊取り線香を使い、抗マラリア薬を、医師の指示通りに内服していた。

同日正午前に病院到着。S国の滞在歴及び遺体に接触という行動歴から、エボラ出血熱が鑑別診断として疑われ、直ちに検体採取となった。血液検体到着後8時間後の午後11時に、国立感染症研究所においてエボラウイルスのPCR検査が陽性となり、エボラ出血熱と判明した。



項目	1公表する情報	2公表しない情報	備考
①患者情報	■ 居住国:日本	■ 氏名:厚生聡	
	■ 年代:20代	■ 国籍:日本	
	■ 性別:男性	■ 居住している市町村区:C区	
	■ 居住している都道府県:東京都	■ 基礎疾患:なし	
②感染源との	■ 感染推定地域国:S 国 V 村		
接触歴等	■ 旅程:8月15日~8月31日		
	■ 感染源の接触の有無:		
	発熱で死亡した遺体との接触あり		
	■ 発症日時:日本時間9月3日夜		
3行動歴		■ 発症前の旅程及び訪問理由:	
(国外)		個人旅行で友人の家族の家で滞在	
		■ 同行者の有無:同行者はなし	
		■ 国外での発症前の渡航歴:	
		同じ大学の留学生の家族がいる郊外	
		のV村を訪れ、その家族の家で寝泊	
		まりしていた。	
		■ 発症前なので、航空機の情報は公表	
		しない(S 国から P 国経由で帰国)	
④行動歴	■ 発症後の行程:9月4日、C区の自宅	■ 発症前の行程:	
(国内)	から徒歩で X 大学。その後、公共交通	空港から空港バスで C 区の自宅へ	
	機関で、Y区の医療機関へ向かった。	【接触者は把握できているため、公表し	
	【接触者を把握できないため、公共交通	ない】	
	機関の利用を公表】	■ 接触者:	
	■ 利用した公共交通機関	同居している 23 歳飲食店勤務のパ	
	11:10 発 ○線:K 駅~l 駅	ートナー	
	11:30 発 ●線: 駅〜 駅		
	■ 感染者の感染予防対策の有無:		
	上気道症状はなかったが、熱が出て		
	いたので、念のためマスクを着用し		
@ -	ていた。		
⑥入院後の	■ 入院した医療機関の所在する都道府	■ 入院した医療機関名:	
状況	県:東京都	○○医療機関	
	■ 容態:発熱と下痢。安定している		
	■ 症状及び治療法:点滴加療		